

令和2年度 第2回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

開催日時: 令和2年12月17日(木)午後6時30分～
 会場: ウェルス幸手 2階研修室
 出席者: 30人 事務局: 6人
 司会: 幸手市介護福祉課 関森主査

1. 開会	
2. あいさつ	杉戸町高齢介護課 山下課長
資料の確認	
新規に委員になられた方の紹介	
3. 令和2年度事業実施状況 資料「令和2年度 在宅医療・介護連携推進事業の実施について(令和2年12月10日現在)」	
杉戸町高齢介護課 新堀主査	<p>幸手市と杉戸町が北葛北部医師会に委託している本事業の上半期の取り組み状況について、(ア)～(ク)の8項目の内容ごとに報告を行う。</p> <p>ア) 地域の医療・介護の資源把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸手・杉戸の医療・介護の資源マップ等は、年一回の更新。 ・新型コロナウイルスの影響について、介護施設等に状況確認を行った。 ・入退院支援エチケット作成に際して医療機関に意見を伺った。 <p>イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態措置における地域包括ケアシステムの影響についてケアカフェで講演をいただいた。 ・地域包括ケア会議を毎月第4木曜日実施。在宅医療連携拠点「菜のはな」や幸手・杉戸の地域包括支援センター及び社会福祉協議会、ケアマネ連絡会等の参加による事例検討や情報共有を行っている。今年度の前半はZOOMを利用したオンラインでの実施とした。 <p>ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退院がスムーズに行えるように意見交換を行い、11月に入退院支援エチケットの運用を開始した。 <p>エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関にもMCSIに参加してもらえよう、拠点の相談支援の周知も兼ねてキャラバン活動を行っている。 ・MCSI登録者は146人。 ・地域住民への普及啓発として、幸せ杉ステッカーを作成、関係各所に同じステッカーが貼ってあることで、興味を持ってもらうことが狙い。 <p>オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療連携拠点の設置は、平成30年度より県事業から市町事業(地域支援事業)に移行され、在宅医療連携拠点活動を継続実施している。 <p>カ) 医療・介護関係者の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度のケアカフェは、12月10日現在で6回実施。 ・10月には入退院支援エチケットの研修会、11月にはバイタルサインについての講演を行った。 <p>キ) 地域住民への普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来月1月31日(日)に幸手市北公民館で市民のつどいを実施。今年度のテーマは「ケアするまち」と「生きるを支える」。 ・「生きるを支える」の動画を上映。後日オンラインで配信もする。 <p>ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北葛北部在宅医療・介護連携推進会議を7月と本日の2回実施。
中野議長	<ul style="list-style-type: none"> ・この地域のケアシステムの使い方を市民の方に知ってもらう為、ドキュメンタリー風の動画を作成した。 ・「ケアするまち」と「生きるを支える」の2本作成した。 ・いくつか要望をいただいている。今後議題にあげていきたい。 ・薬剤師会の方から市内の訪問看護ステーションなどの利用が少ないのではないかと。 ・介護保険が新型コロナウイルスによってどのような影響を受けたのかを、保健所の協力を得ながら進めていきたい。
4. 入退院支援エチケットの運用状況について	
中野議長	<p>要介護状態にいる患者が入院の際に、生活状態が明らかになったり、状態が悪化することがある。このため、在宅療養に移行するときには調整が必要であるが、実際に対応が出来ていないこともあり、地域課題となっている。他の地域でも入退院支援ルールを発行しても活用されていないことも多々ある。この地域の入退院支援エチケットは、発行するだけでなく、年度ごとにテーマを決めて質の改善を段階的に行っていく。</p> <p>本日は、入退院支援エチケットの評価をどのようにするか審議いただきたい。ケアカフェでの意見交換と入退院支援エチケットについてのアンケートの実施を考えている。意見等がある場合は菜のはなに連絡をいただきたい。</p> <p>特徴としてはかかりつけ薬剤師への声掛けもルールに入れており、その部分について薬剤師からと入院側からそれぞれ評価してもらうことを考えている。既に出ている意見としては、病棟の看護師と入退院支援を担当している看護師との関わりがあり、病棟で患者さんに対応している看護師と、実際に入退院支援を担当している看護師の対話のサポートにもなるよう入退院支援エチケットを考えている。今回評価するのはあくまで病棟の看護師。</p> <p>アンケートは3月に予定しており、その実施について賛成の場合は挙手をいただきたい。(→賛成多数)</p>
薬剤師会会長 関谷氏	アンケートは会でとりまとめを行うのか。
菜のはな 石戸谷氏	菜のはなから各薬局に連絡をし、回答をとりまとめます。

令和2年度 第2回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

5. コロナ禍の在宅医療介護の課題について	
中野議長	子育て分野の方々にも来ていただいている。ダブルケアや子育て上の問題について共有したい。
幸手市健康増進課 塚原主査	幸手市には子育て総合窓口があります。幸手市の助産師会に委託しており、母子保健コーディネーターとして助産師が相談を実施。また保育コンシェルジュとして保育士も相談に応じています。コロナ禍の中でSNSで情報を持っているお母さんたちは多いが、誰に相談をしたらいいか悩んでいる人も多い。電話の相談件数が増加傾向にあり、1つ1つの相談時間は非常に長くなっている。
中野議長	この協議会では主にダブルケアが主な対象であるが、地域包括ケアの考え方としては、子育て分野の状況共有もしておきたい。 また、通所サービス等を休んでしまっている人なども多く、コロナ対策をしっかりとっていく必要がある。杉戸町の取り組みについて報告をしてもらいたい。
杉戸町高齢介護課 新堀主査	外に出ることが難しくなっており、お家でも簡単に取り組んでもらえるようにということで、体操をまとめた冊子を配布した。サロン活動等も自粛気味であったが、安心して開催してもらえようように対策についての説明をおこなった。
中野議長	コロナ禍において活動をしていてもいつもより活気がないなどの状況が見受けられる。地域をあげて感染対策を取りながらも、地域の活動を続けられるような対応をしていく必要がある。
6. 認知症初期集中支援チーム検討委員会について	
北飾北部医師会 山根先生	(認知症初期集中支援チームとしての関わりは0件だが)コロナの影響もあると考えられるが、この地域でのリソースをどのように活用できるかがわかってきた面もある。 包括支援センター等の物忘れ相談などで対応いただいているケースもある。 認知症ケアの具体的な方法について ・認知症ケア相談室を市内グループホームに設置した。 ・認知症の人にどのように接したらいいかは声掛け訓練を実施。 徘徊高齢者への支援 ・幸手市 見守り支援タグを貸し出し ・杉戸町 見守りシールの配布 認知症のことについて話せる場 ・オレンジカフェの開催 コロナ禍における相談について。 ・マイナスになったこととプラスになったことがある。 ・マイナスのこと ・オレンジカフェの中止や地域の人が集まりが減少してしまっている。社会性が失われることで認知症の悪化につながってしまう。 ・プラスのこと ・家族の在宅時間が増え、異変に気づくことができ受診に繋がった。 ・本人が拒否だったデイサービスの利用が、通常の間わりが減ったことで利用に前向きになり、利用に繋がった。 ・給付金の手続きが上手くいかないことで、支援の必要性を把握することができた。民生委員や関係部署との連携にもつながった。
7. 連絡事項	
幸手市介護福祉課 関森主査	・次回の会議は令和3年6月を予定。 ・認知症初期集中支援チーム検討委員会も同時に開催する予定。 ・1月31日幸手市北公民館で市民のつどいを開催。動画での配信も後日行う。